

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100297
法人名	株式会社ヴィーヴル
事業所名	グループハウスあい
訪問調査日	平成 21 年 2 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100297
法人名	株式会社ヴィーヴル
事業所名	グループハウスあい
所在地 (電話番号)	熊本県熊本市田迎1-7-20 (電話)096-377-5022
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成21年2月20日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年1月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 5 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 8.7 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	
	2階建て	1階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150000円)	有りの場合 償却の有無	有 1年
食材料費	朝食	300 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83.7 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	慶徳加来病院、内尾・土井クリニック、おのうえ歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に囲まれて位置するホーム、。同敷地内には居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・デイサービス・有料老人ホームがグループハウスあい隣に隣設し、地域の福祉ニーズに柔軟に対応可能な体制が整えられている。近隣には公園や大型スーパー・ドラッグストア等があり、生活しやすい環境で、日常的な外出や買い物支援が行なわれている。また、外出時にトラブルがあっても、地域住民の気遣いや協力があり無事帰園に繋がる等、地域住民の理解と認知度が高まっている。追加された理念の「地域の中で自分らしく暮らし続ける事を支援します」が浸透し、地域密着型としての暮らしに向けた取り組みが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の外部評価を受け、理念は、地域密着型サービスの意義を反映した内容が盛り込まれたものとなっていた。また運営推進会議のメンバーに地域の民生児童委員が加わり、地域との繋がりをより強化する等、課題を真摯に受け止め、改善に向けた取り組みがみられた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価の意義と目的について職員と話し合い、全員で分担した項目を検討し取り組んでいる。その後カンファレンスで意見交換を行い、意見を取りまとめる作業を通じて職員の気づきを促し、改善への対応を新たにしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、校区社会福祉協議会長・民生児童委員・地域包括支援センター・保健福祉センター保健師・協力医療機関医師・音楽ボランティアの他、家族の代表2名が参加し、2ヶ月に1度開催。ホームの活動や入退居状況・行事参加等の報告・医師の講話等、運営推進会議の効果的な進め方を行い多様な話し合いの場としている。地域の情報を得、行事に参加したり地域との交流に積極的な対応が図られている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2ヶ月に1度の家族会への出席率は高く、暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について報告が実施されている。さらに毎月発行の「あい新聞」には職員による一筆箋での温かみのある状況報告を行い、友好的なコミュニケーションを図ることで、家族との信頼関係が構築されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 包括支援センター圏域で、「一時保護施設」として登録され、まだ利用はないものの受け入れ態勢が整えられていた。「校区安心メール」の会員となっており、校区内の多様な情報を入手する事で、地域の行事に積極的に参加し住民との交流を図っている。また12月からは「子供ひなんの家」としての登録も済み、今後も地域住民との交流が拡大することが期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、ご本人が地域の中で自分らしく暮らし続ける事を支援します」と、地域生活での継続支援を謳った項目を追加し、事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の職員会議で理念を唱和することで意識付けに努めている。また、半年毎にミーティングで、4つの項目ごとに意味を確かめ、ケアに繋がっているか職員同士で見直しを行なっており、理念の理解と浸透への取り組みが継続的に行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1度、近くにあるピアノ教室の発表の場としてリビングを提供しており、入居者は子供のピアノに合わせてタンバリンや合唱する等、地域との交流が積極的に行われていた。地域で行われる夏祭りやどんどやには全員で参加し、清掃活動には職員が参加する等、地域との繋がりにも努力されていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が評価の意義や目的について職員に説明し、全職員が項目を分担し評価を行った上で、ミーティングで読み合わせをしながら検討し、取りまとめた。前回の改善課題についても全員で取り組んでおり、外部評価の意義を理解し、サービス向上に意欲を持っていることが伺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、校区社会福祉協議会長・保健福祉センター・地域包括支援センター・民生児童委員・協力医療機関医師・音楽ボランティア・家族代表・管理者・法人部長等で構成され、定期的開催。活動内容・入居状況・行事参加等を報告。医師の講話の他、民生児童委員から独居高齢者支援の相談もあり、ホームでの食事会への招待を検討する等、成果をあげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	熊本市介護相談員の訪問を毎月受け入れ、利用者の声を聴く事業も積極的に活用している。また、市の担当者と密に連絡を取り確認する等、透明性のある運営に努めている姿勢が伺えた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行の「あい新聞」と併せて、職員による暮らしぶりを伝える直筆の手紙を郵送し、家族の安心と信頼が得られている。また、「往診ノート」を導入し、往診日や診察内容、特記事項等を記録し、医師のサインを得て家族に報告するシステムを検討する等、更なる努力もみられた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内への意見箱設置や、年2回のご家族アンケート調査を実施し、家族の意見や要望を汲み取る努力が行われている。また、2ヶ月1度の家族会は参加率が高く、家族会からの意見を運営に反映させる仕組みがあった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つことの意義を重視し、職員の異動はあまりみられない。同法人デイサービスとの交流もあるため異動による混乱はみられない。また、新規採用の職員については、毎月発刊される「あい新聞」でプロフィールやコメント等を紹介し、家族へ報告して信頼に繋がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の教育委員会を中心とし、ISO規定で法人全体の年間社内研修計画に沿った研修が実施されている。全職員が教育プログラムに基づいた研修に参加する機会が設けられており、職員の資質向上を図っている。	○	外部研修は、事務所に掲示し職員に促しているものの、休暇を利用し自費での参加が求められているため、積極的な参加は少ないように見受けられる。人材計画育成に基づき今後の支援を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター領域内の地域密着型事業所連絡協議会に積極的に参加し、他事業所の見学や情報交換、親睦等に努めており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間から2週間の体験入居制度を設け、徐々に馴染める工夫が導入されている。法人内デイサービスからのハウス入居者は顔馴染みの職員もおり、安心できる環境となっている。また、他施設からの直接入居する利用者に対しては、安心を得る言葉かけや対応に留意する努力が見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習字が得意な入居者には、ボードに献立の記入を依頼する等、入居者の得意分野を見出し、活躍できる場面を設けている。漬け物・干し柿・キンカン作り等、昔ながらの料理法を入居者から学ぶ事も多く、感謝し合いながら共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、職員は担当した利用者の記録を行なっている。家族の協力で、センター方式の「基本情報」「私の家族シート」「私の生活シート」には記載があり、情報の共有に活用されていた。	○	入居者との日々の会話から情報収集を行い、担当以外の職員情報も記録し、センター方式に反映させる仕組みが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の意向や要望を基に、主治医・職員等と共に毎週行われるカンファレンスで情報交換を行い検討されている。また、毎日の介護記録は、介護計画に沿った記録が可能な様式の工夫もあり、随時介護計画を確認する事ができる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングでは、家族の意向を聴取し、要望は可能な限り配慮する努力があった。毎月のカンファレンス時に見直しを行い、介護計画に反映するシステムとなっており、現状に即した支援としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	友人が来所されたり、福祉タクシーを利用して自宅訪問の同行等、柔軟な支援がある。また、デイサービスや訪問看護を利用し、リハビリや点滴のサービスを受ける等、入居者・家族の要望に沿った多様な支援が行われていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関からの往診があり、希望者にはかかりつけ医の往診が可能な支援も行われ、家族の安心に繋がっている。また、かかりつけ医への受診は家族対応を基本としているが、緊急な場合や家族対応が困難な場合は職員による付き添いを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「急変時における対応についての同意書」「終末期の支援に関する確認書」には、医師・入居者・家族・ホームの意向が示されており、看取りの希望の場所や家族の終末期に対する希望等の項目があり、各家族からの記名捺印がみられた。	○	さらに、終末期の方針の共有と研修を行うことで、家族からの信頼が得られると期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助時は、カーテンやドアを閉めプライバシーを損ねることのない配慮が徹底されており、声かけもプライドを傷つけない言葉が工夫されていた。記録は、リビングで入居者を見守りながら、さりげなく目立たぬように行う配慮があった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きが苦手な入居者は、遅い朝食を摂る等、生活歴や習慣に配慮し、入居者の生活リズムや体調に合わせた生活を支援している。調査時、リビングでテレビを見ながら昼寝する人、入浴を楽しむ人、趣味の習字をする人、歯科衛生士による口腔ケアを受ける人、家族と外出する人等、一人ひとりのペースを大切に支援が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は職員が準備し、昼食・夕食は配食サービスを利用している。前年度は月に1度昼食作りを行っていたが、前回の外部評価を受け、回数を増やし週に1度職員と入居者と共に昼食作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置状況で夕方以降の入浴は難しいが、昼間の時間帯であれば曜日に関係なくいつでも自由に入浴可能となっている。入居者ごとにお湯は入れ替えられ、好みの温度調節が実施されている。また、ゆず湯・菖蒲湯等、さまざまな入浴を楽しむ工夫も取り入れられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や料理・掃除等、細かく役割が分担されており、一人ひとりが得意分野で生きがいを持って暮らせるよう工夫している。また、日常的な散歩や買い物、デイサービスでのリハビリ等、多様な楽しみごとの支援もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園やお地藏さんへの散歩、毎日欠かさず朝食時に摂っているヨーグルトと牛乳を買いに出掛ける等、日常的な外出支援が行われている。また、江津湖・熊本港・花見等のドライブや、友人宅への訪問等、家族の協力を得ながら、希望に添った多様な支援が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・ベランダ出口は日中施錠せず、センサーを設置して安全に配慮している。外に出て行こうとする入居者にはさりげなく付き添い、自由な行動を支えている。また、近隣の理解と協力もあり地域での見守り体制も構築されつつある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人主催の避難訓練が年4回あり、入居者と共に訓練に参加している。運営推進会議のメンバーからの紹介で町内消防団の会議に出席し、自主防災クラブへの参加も期待され、更なる地域との協力体制に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者毎の湯飲み8分目の水量を計測し、水分摂取量は個別に記録され、1日の総摂取量を把握している。経口摂取を大切にし、入居者の状態に合わせた食事形態が工夫され、栄養が偏らないよう健康管理が行われていた。毎日のヨーグルト・牛乳・寒天を使ったおやつ等、食事の工夫を行うことで薬に頼らない排便を促す支援がみられた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下には季節を感じさせる「節分」や「ひな祭り」の飾りや入居者による手作りで暖かみのある習字・折り紙の作品等も展示され、和やかな雰囲気が漂い、入居者がのんびり過ごしている様子が感じられた。お香を焚いたり、排泄介助時は意識して換気を行う等、消臭対策も図られている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンス・鏡台・椅子等使い慣れた家具や、家族の写真・位牌・ぬいぐるみ等、それぞれに居心地よい部屋作りが行われていた。どの部屋も個性的な部屋作りの工夫があり、その人らしく安心して過ごせる環境作りの支援が見られた。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループハウスあい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市田迎1丁目7-20
記入者名 (管理者)	内田 優子
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社の理念に基づき、「家族として一緒に暮らすこと」を大切にし、その人らしい生活が地域の中で安心して継続していけるよう支援していくことを、事業所の運営理念として掲げている	○	地域との関連性についてスタッフ間で話し合い、事業所の理念に追加し、地域密着型サービスとしての役割が果たせるよう取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、スタッフ全員で理念を唱和し意識付けを行い、1日のサービスの実践に取り組んでいる。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内（廊下）に理念を掲示し、訪れた家族や地域の方には目に付くようにしている。また、毎月発行するご家族向けの「あい新聞」に理念を掲載し、地域の方々には運営推進会議で閲覧して頂くなどして、理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節ごとに、野菜の苗や収穫した野菜を頂いたり、こちらから手作りのお菓子をおすそ分けしたりしてしている。	○	継続していく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて、地域の行事へのお誘いをして頂き、夏祭りや敬老会、生き生きサロンへの参加をさせて頂いた。また、2ヶ月に1回、ご近所のピアノ教室の先生と子ども達の訪問があり、音楽を通じての交流を行っている。	○	12月より「子どもひなんの家」として登録させて頂き、今後も、地域住民とのとの交流を積極的に取り組んでいきたい。また、地域の行事（夏祭り、清掃活動等）には積極的に参加することで、地元の人々と交流することに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社内の他事業所と協力し、地域で行われている生き生きサロンに参加したり、定期的に行われている地域の清掃活動に積極的に参加している。	○	今後、民生委員さん方と協力し、ご近所に住むお一人暮らしの高齢者を招いての食事会などでの交流を通して、地域貢献に取り組んでいきたい。また、子育て支援として、春休み・夏休みの時期に書道や折り紙教を開き昼食を共にする、なども検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果をミーティングで話し合い改善策を検討し、実践している。自己評価については、評価の意義・目的についてスタッフに説明し、担当項目を割り振り各自評価を行った上で、ミーティングで読み合わせをしながら評価に取り組んだ。	○	評価後に改善に向けた話し合いをもち、具体的な改善計画を立てて、出来るだけ早く取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、利用者の近況報告・サービスの実践内容について報告を行っている。今年度になり、町内を担当されている民生児童委員さん3名の参加を頂くようになり、より身近な情報提供を頂き、地域交流が密になりサービス向上につながっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員の訪問を定期的に受け入れ(1/月)、連携をとっている。事故報告はできるだけ速やかに行い、運営上の疑問点や相談などは、その都度、市の担当者の方と連絡をとり、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年は県のグループホーム連絡協議会での研修会があり、当事業所からも数名参加した。今のところ、必要な方はいらっしゃらないが、家族会・運営推進会議でも情報提供し、多方面から活用支援できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会が予定されているため、できるだけ多くのスタッフで参加し、認識を共有し虐待の防止に努めたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族を中心に、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。重度化や看取りについての対応、医療連携体制について、詳しく説明し、同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1対1または少人数でゆっくりと話す時間をできるだけ作り、入居者からの意見や不満、苦情を聞きやすい態勢を作るようにしている。又、市から派遣される介護相談支援員を受け入れ、不満や苦情を外部者へ表せる機会を設けている。クレーム報告書による是正処置も講じるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回の家族会で報告するとともに、月に1回の新聞の発行とそれぞれの利用者の1ヶ月の暮らしぶりや健康状態を、ご家族へお手紙で報告している。又、預かり金の出納帳は家族会議や面会時確認していただいている。また、請求書と共に、預かり金の使用明細・残金を報告している。	○ 往診ノートを作成し、いつでもご家族が閲覧できるようにしていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口については、事業所内の窓口と行政の窓口を説明し、いつでも受け付ける態勢にある。ハウス内にはご意見箱の設置をしており、要望などを気軽に提出していただくようにしている。年2回、御家族へのアンケートを実施している。又、市から派遣される介護相談支援員を受け入れ、訪問の日時を新聞でお知らせし、不満や苦情を外部者へ表せる機会を設けている。	○ 継続していく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社の年間目標に沿って、部門目標をたて、スタッフ各自で個人目標を作成している。定期的に個人面談を行いOJTを実施している。月1～2回のミーティングで、運営に関する話し合いを行い、そのつど意見や提案を出してもらっている。	○ 継続していく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夏・冬の利用者の起床時間に合せて、早出の時間を変更している。また、夕方の行事参加時や、夏場の夕方の散歩にあわせて勤務時間の調整を行い、柔軟な対応に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフはほぼ固定しており、なじみの関係の中でのサービスの提供を心がけている。法人内のデイサービスとの交流あり、なじみの関係を作っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内教育委員会を中心に、社全体での教育プログラムにそって、スタッフ全員が学習する機会があり、積極的に参加するよう促している。ISOの規定の中で設けている、年間の教育計画を作成し実践している。	○	社内での事例発表を通して、スタッフの質の向上に取り組んでいきたい、
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催や市のグループホーム連絡協議会に参加し、他のグループホームの職員との交流を図ったり、勉強会に参加してサービスの質の向上を図っている。	○	地域包括支援センター圏域、地域密着型サービス事業所連絡会に積極的に参加することで、地域の中での連携をとりサービスの質の向上に取り組んで行く。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	部長制が導入され、管理者やスタッフがいつでも相談ができるような体制がある。社内の改善委員会主催によるレクレーション等により、他事業所スタッフとの交流や親睦の場があり、気分転換が図れている。職場、仕事内容についての職員の希望を聞くアンケートをとるなどの取り組みが行われている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課表による自己評価・他者評価から個人面談をを行ったり、能力考課表に添った等級性が用いられている。また、定期的に外部講師による心理学習を行い、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず面接を行い、本人の生活に対する要望や困っている事・不安なことについてじっくりと話を聞き、受け止める努力をしている。相談受付シートを作成し、スタッフ間での情報の共有を行っている。また、相談受付時にできるだけご本人にも見学にきていただき、好まれる環境なども把握するように努めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず面接を行い、家族の生活に対する要望や困っている事・不安なことについて話をよく聞き、受け止める努力をしている。ご本人とご家族との思いの違い、ご家族が求めているものを理解し、できるだけ受けとめられるよう努めている。	○	入居待ちの方へ、現在のグループハウスの生活状況や活動内容についての情報提供を定期的に行い、入居の前からの良い関係作りに努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、または担当の居宅ケアマネジャーからの情報を元に必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に関して、本人にどのように説明してあるかを、ご家族より前もってお話を聞いておき、他の利用者とは職員が時々介入したり、ご家族と一緒に過ごしてもらう時間をとるなどして関係作りができるようにしている。必要に応じて、入居前に一定期間グループハウスでの生活を体験していただくこともできるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節に応じた昔ながらの習慣(梅干漬け、干し柿作り、餅つき等)を一緒に行き、支えあう関係を築いている。習字の得意な方に、社内研修の題目を書いてもらうなど、得意分野で力を発揮してもらい、お互いに感謝する気持ちを持って過ごしている。	○	今後も継続していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を2ヶ月に1回開催し、ご本人がより快適に過ごせるよう話し合いながら、ともに支えあう関係を築いている。季節ごとに衣替えや寝具の入れ替えをしてもらったり、レクリエーションや野外活動と一緒に参加して頂いたりして、家族の役割を持っていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時のご家族からの情報で今までの関係を理解した上で、面会時に、ハウスでの暮らしぶりをお伝えしたりしながら、よい関係が築いて行けるよう支援している。面会時は、ご家族だけで居室ですごしたり、一緒に散歩に行きいただくなどして、ご家族でゆっくりとした時間が持てるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や親戚、ご友人の面会をして頂いたり、ご家族により、なじみの人をお連れして頂いたりして、継続的な交流ができるよう働きかけている。	○	ご家族と相談し、家族の行事、結婚式、葬儀、その他祝い事などへの参加ができるよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、外出時のグループ分けなどに配慮しており、利用者同士の関係を職員が把握し、気分の変化に注意しながら、関係がうまくいくよう支援している。利用者同士の支え合いの場面も日々見られる。	○	利用者同士の関係を職員が良く把握し、良い関係を保てるよう、職員が介入しすぎないよう支援を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院によって退居された場合も、面会やお見舞いに行ったり、ご家族の相談に乗るなど、継続的なかかわりをもつよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者について担当を決めており、担当者によりセンター方式用紙への記入を行い、スタッフ間での情報共有ができるよう努めている。	○	シートの記入に終わるのではなく、それを生かした関わりをもち、生活の支援を行っていきたい。センター方式の学習を通して、パーソンセンタードケアに、より近付けられるよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、家族に記入して頂いたアセスメントシート、また、在宅の時のケアマネージャーや入居前に入所していた施設からの情報を得ている。また、家族の面会時や、本人から聞いたことを記録に残し、職員で共有できるようにしている。	○	継続していく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活サイクル表をつかって一人ひとりの生活リズムを把握し、気分の変化に配慮しながら、本人状況にあった生活の支援を行えるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のケアカンファレンス時に、現在の状況を確認しながら評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行いチームで介護計画の作成を行っている。	○	定期的にかンファレンスを継続し情報交換を行いながら、利用者が自分らしく暮らせるよう介護計画をチームで作成していく。また、ご本人や御家族の意向や要望をきき、介護計画の中に反映させていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護記録を介護計画に沿って記録できる様式にし、その都度介護計画を確認するようにしている。また、3ヶ月毎のモニタリング時には担当職員が家族の意向を確認するようにしており、家族の意向も介護計画の中に反映されるよう努めている。	○	今後も継続して、ご本人やご家族の意向を確認しながら、現状に応じたサービスにつながるよう、できるだけ本人の状況の変化に応じた介護計画の見直しを行うようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、利用者の状況やスタッフの対応を介護計画に沿って記録できる様式にし、その都度介護計画の評価や見直しやを実施している。	○	記録の方法等、活用しやすいかを定期的に見直し、日々の実践に生かせるように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算をとり、毎日の健康管理の支援、重度化した場合や終末期の医療連携を行いながら、生活の継続ができる様支援を行っている。また、通院が必要な時、どうしても家族が介助出来ない場合や、そのときの状況によっては送迎の支援等を行っている。	○	今後も、本人や家族からの要望を聞く機会を多く持ち、柔軟な対応を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が地域での暮らしを続けられるよう運営推進会議などで、民生委員や社協長からの情報を頂いたり、校区の安心メールに登録し地域と情報を共有できる体制を作っている。	○	地域の中の警察・消防・教育機関等との連携・協力体制についても検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に音楽ボランティアの訪問を受けたり、病院受診時に御本人の状況によって福祉タクシーを利用の支援を行っている。また、ご本人の体調や希望により、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターからも参加していただき、情報交換、協力関係を築いている。	○	今後必要があれば、ぜひ、地域法活支援センターに相談して協働出来るように努める。昨年より、地域包括支援センター圏域の地域密着型サービス事業所連絡会が発足したので、積極的に参加することで地域の中での連携がとれるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関からの定期的往診と、希望される利用者には入居前からのかかりつけ医からの往診を受けられるよう支援している。主治医との連携を密にし、必要な時に適切な医療が受けられるよう、支援している。	○	今後もかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との連携は特になく、相談や受診が容易にできる体制ではない。しかし、必要時には連携医療機関に相談し、専門医への紹介をして頂くなどして、適切な指示や助言をいただいたりしている。	○	認知症に関する診断や治療、対処方法等、医療の対応が、いつでも個々にできるよう認知症専門医の確保をしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置あり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護ステーションとの連携もとりながら、医療処置を受けながら生活が継続できるよう体勢を整えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に入居中の生活状況を伝え、入院中も安心して過ごせるようにする。又、早期に退院できるよう家族、入院先の医療機関と話し合いを行っている。	○	入院中、出来るだけ本人への精神的負担がかからないように、病院との情報交換を行う。また、病院関係者、本人、家族と話し合い、早期の退院への支援を行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応、また、看取りに関する対応について、家族会で話し合う機会を持ち、ご家族と同意書を交わし、できるだけ迅速な対応ができるように努めている。重度化した利用者については、ご本人・ご家族とかかりつけ医と話し合いを持ち、方針を確認した上で職員全員で共有し、ケアにあたっている。	○	継続していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ミーティングの中で、支援のあり方についての検討を行い、職員の能力を考慮して「できること・できないこと」を見極めている。重度化した場合の方針や対応の方法について、個別での対応が出来るよう、記録に残して職員での共有と統一したケアが出来るよう努めている。	○	支援を行うにあたり、スタッフが不安なく日々のケアができるよう、定期的な勉強会を継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅や施設などからグループホームに移り住んでこられる場合は、家族や以前おられた施設からの情報収集を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	○	今後、グループホームから別の居所へ移り住む際は、グループホームでの状況を詳しく情報提供を行うようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であることを第一に考え、言葉かけやケアを行う際に、利用者のプライバシーを傷つけないよう配慮している。利用者の見守りを行いながら介護記録の記入をしているが、その際、利用者と同じテーブルで行わないようにし、個人情報の取り扱いに注意して	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者にあつた声かけを行い、本人の希望が聞きだせるようにし、自分で決めたりしやすいような言葉かけに心がけている。	○ 本人の希望を聞きだせるように声かけに配慮し、自己決定ができる場面を作り、納得して暮らせるよう支援を行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間・就寝時間など決まった時間にするのではなく、本人の生活のペースや体調に合わせた個人個人への支援を行っている。	センター方式の活用を徹底し、継続していきたい、
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人・家族の希望を聞きながら、なじみの美容室に行けるよう努めている。また、身だしなみに気をつけ、本人にあつたヘアクリームなどを使用したり、外出時には、ご本人と一緒に選んだ服を着られるようおしゃれを楽しんでいただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は配食サービスを利用している。昼食を週1回利用者と協働し手作りし、同じ食卓を囲んで食事を楽しんでいる。一人一人の状況に合わせて、おかゆや刻み食など食事形態を考慮して提供している。	○ 今後もしばしば食事作りをする機会を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつ等では一人ひとりの状況に合わせて楽しめるように支援している。現在、飲酒や喫煙の習慣がある利用者はおられない。	○ 利用者の嗜好品を常備し、食卓に出して、それぞれが楽しめるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェックシートを利用して排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行うなどの対応をしている。また、一人ひとりの能力・状況に応じたパンツ・パット類の洗濯をしている。	○	継続していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間を決めず、一人ひとりの状況や希望に添って、入浴できるよう支援している。	○	夜間の入浴を希望される利用者もおられるので、職員の勤務時間も考慮しながら検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝・消灯時間などは設けず、本人の希望に応じて就寝の援助を行う。休息はとれるよう、ある程度の時間になったら職員が声かけを行い、就寝の援助を行うようにしている。就寝前にホットミルクを飲んでいただき、安眠につながるようにしている。	○	継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を参考にしたり、能力に応じて家事での役割分担ができるようにしている。料理、洗濯、掃除・・・とそれぞれの得意分野で能力が発揮でき、自信や喜びを持った生活ができるよう支援している。また、外出や地域行事への参加など希望を聞いて楽しみを持った生活ができるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金はハウスの方でお預かりし、個人で持っておられる人はいない。ハウス内の買い物に利用者と一緒に出かけ、レジでの支払いをしていただくことで、社会性の維持の支援を行っている。	○	ハウス内に定期的な売店を設け、自分で所持しているお金で買い物をする機会があり、楽しみが持てるようにしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ハウス周辺の散歩や、お地藏さん参り、また、近くのお店に買い物にほぼ毎日でかけている。その日の希望によって散歩コースを変えたり、一人一人の体調や身体状況をみながら支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事計画を立て、年に2～3回お花見や温泉などに、ご家族と話し合い協力も得ながら外出を行っている。	○	個別での対応はまだ行っていないので、それぞれご家族も交えて希望を募り、外出する機会がもてるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハウス内に公衆電話の備え付けもあり、家族や友人への電話をかける支援を行っている。また、ご家族やご友人からのお電話・お手紙はいつでも受けられるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等の制約は設けて居らず、いつでもどなたにでも訪問して頂くように家族にも伝えている。また、面会時は自室でゆっくりお話しして頂くか、リビングの一部を解放して場所を提供し、ゆっくりと過ごして頂くように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を行い、身体拘束に関して共通認識を持ち、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ベランダ出口の鍵はかけず、自由な暮らしを支援している。外に出ようとされる利用者もおられるので、一人一人のその日の気分や状況を把握し、スタッフ間のコミュニケーションを密にして見守りを強化したり、職員がさりげなく同行しての外出支援を行ったりしている。一応、安全面を考慮して、玄関とベランダにセンサーをとりつけている。	○	地域の方へも理解を求め、なじみの関係をつくりながら、一人で外に出られても見守り・声かけや連絡をもらえるような関係を築いていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は記録等を行う時も利用者を見守りやすい位置ですごし、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は利用者全員の安全、居場所の確認を行い、随時巡回を行って安全に配慮している。	○	継続していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に危険性の在るものは持ってきて頂かないように説明してある。はさみや包丁などは、職員の目が届く台所やリビングで使って頂くようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告、事故報告書を直ぐに記入し、カンファレンスで情報の共有をし今後の対策を検討している。また、その後に再度有効性の確認を行い、事故防止に取り組んでいる。	○	外部研修でのリスクマネジメント研修に参加したり、社全体での勉強会にリスクマネジメントをとりあげ、スタッフ・社内全体で事故防止に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、一人一人の状態について把握出来るようにしている。また、本人の状態(嚥下状態・栄養状態等)に合わせて、食事の形態を変えるなどして、できるだけ経口摂取ができるよう工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを整備し、社内の感染対策委員会に定期的に参加し、委員会出席者からの報告を確実に言い、職員が周知できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事準備の際に、手洗いを徹底して行う。ふきんやまな板は毎日夜勤の時間帯に漂白をして、衛生管理に注意している。また、冷蔵庫の食品には日付を記入して管理し、2日以上たつものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階に本社事務所があることもあり、建物の玄関は2重の自動ドアになっているため、出入りはしにくくなっている。しかし、玄関ポーチに花や観葉植物を置くなどして和やかな雰囲気になるよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや洗面台などに季節の花を飾ったり、壁の掲示板や、居室のネームプレートの下に季節ごとに飾り付けをするなどして、居心地の良い空間づくりに努めている。	○	今後も、利用者の皆さんと一緒に、居心地よく過ごせる空間作りを行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く設置し、利用者同士で楽しくおしゃべりをしたり、一緒にテレビを楽しんだりする場所がある。又、リビングの片隅に一人で外を眺められる空間があり、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、できるだけ今まで使用されていたなじみの家具やを持ってきて頂いたり、家族の写真を飾るなどして、居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけ窓を開放し換気が出来るよう努めている。トイレの換気扇の利用や汚染があった場合はその都度清掃し、においがこもらないようにしている。室温や、そのときの利用者の状況によりエアコンを利用するなどして調整をしている。また、消臭と心の癒しもふくめて、時々お香をたくなどして、いつも気持ちよく過ごせるよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関を上がったら、フロア内はバリアフリーとなっており歩行器や車いすでも通行しやすくなっている。また、トイレ・洗面台・浴室・廊下には手すりが設置してあり、ご本人が自立して安全に過ごせるように工夫している。	○	入居者の自立を妨げないようにしながら、安全に過ごせるよう、環境の整備を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札で名前の表示をしている。居室の場所をいつも聞かれる方には大きな造花をドアに飾りわかりやすくしている。トイレの電気や開閉の仕方について記入したものをドアに貼って、混乱を防いでいる。	○	文字に書いたり、目で見ること、理解できるものが多々あるので、能力を活かして安定した生活できるように工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは、利用者が自由に出入りでき、洗濯ものを干したり、取り入れがしやすいようにしている。プランターや北側テラス前のスペースに花や野菜を植え毎日の水やりをしたり、収穫をしてスタッフも一緒に楽しんだりしている。また、テラスに座ってハウス前の花畑を見学できるスペースとして活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「家族」として、ご利用者お一人お一人を大切に、喜怒哀楽をともにしながら、ご利用者のペースに合わせた生活ができるように、日々の実践に取り組んでいる。
- ・医療連携加算をとっており、ご利用者の健康管理には十分注意し、早い対応が出来るように努めている。また、重度化や終末期における介護、または看取りについても、ご家族や主治医との話し合いを十分に行いながら、積極的に対応していく。
- ・2ヶ月に1回の運営推進会議・家族会が定着しており、地域との関係を深めていき、利用者が地域の中で安心して楽しい生活ができるよう支援していきたい。
- ・職員全員が向上心を持ち、認知症ケアの知識の習得と技術を身につけられるよう、日々努力をしている。